

2020年（令和2年）全国犬猫飼育実態調査 結果

犬：848万9千頭、猫：964万4千頭
犬・猫 推計飼育頭数全国合計は、1,813万3千頭

ペット飼育に関する高齢者の動向を考慮し、本年も調査対象者の年齢は「20～79歳」。時系列では2016年～2020年の5年間の調査結果により今回集計。猫の飼育頭数は直近の5年間の傾向としては横ばいであるが、犬の飼育頭数は減少傾向。2017年以降今回の調査でも、猫の飼育頭数が犬の飼育頭数を上回った。

一方、1年以内新規飼育者の飼育頭数は、犬・猫共に2018年を底に、2019～2020年と増加傾向にあり、2020年の増加率は2019年よりも更に高まっている。新型コロナウイルス禍の影響で、ペットとの生活から癒しを求めたり、家族内でのコミュニケーションを深めている傾向がうかがえる。

ペットフードの事業者を中心とした86社（正会員54社、賛助会員32社）で組織する一般社団法人ペットフード協会【東京都千代田区、会長：石山恒】は、2020年（令和2年）全国犬猫飼育実態調査を行ない、この度その結果がまとまりました。

主な結果は次の通りです。

1. 2020年 全国犬・猫 推計飼育頭数（P. 18）

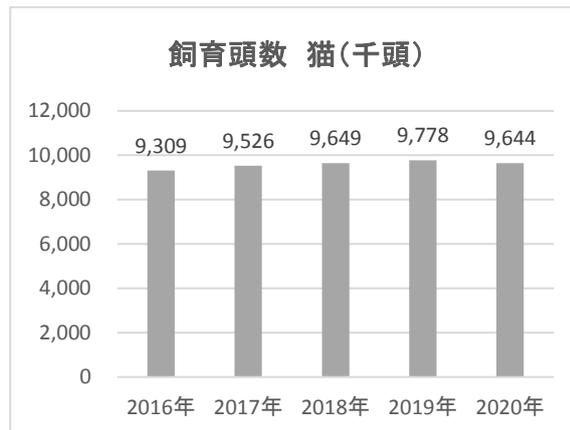
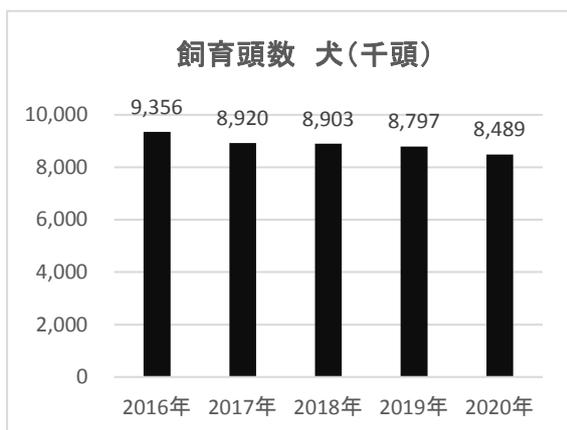
全国の推計飼育頭数 犬：848万9千頭、猫：964万4千頭。

調査対象者の年齢を「20～79歳」として、2016年～2020年の5年間の調査結果により今回集計しました。

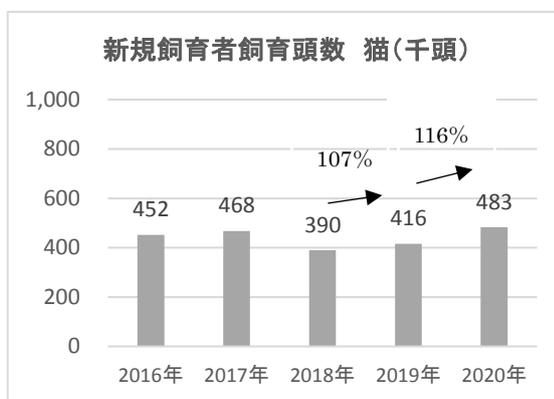
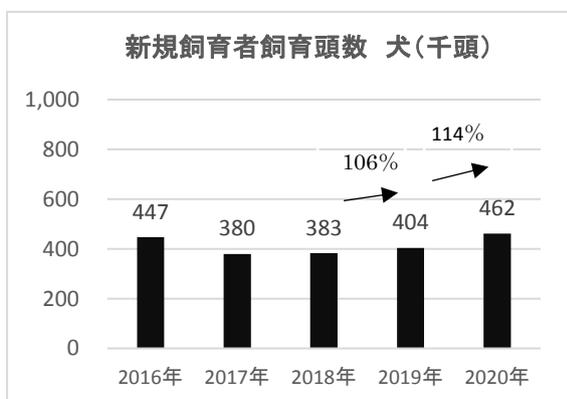
時系列でみると、犬の頭数は減少が続き、猫の頭数は横ばい。今回の調査でも、猫の飼育頭数が犬の飼育頭数を上回りました。また飼育率も世帯数の増加傾向が続く中で、猫は9%後半を維持し、犬は、減少傾向にあります。

	世帯数 (単位：千)	飼育世帯率	飼育世帯数 (単位：千)	平均飼育頭数	飼育頭数 (単位：千)
<犬>	57,380.5	11.85%	6,800	1.25	8,489
<猫>	57,380.5	9.60%	5,506	1.75	9,644

*尚、猫の頭数調査結果には外猫の数は含まれておりません。



一方、1年以内新規飼育者の飼育頭数は、犬・猫共に2018年を底に、2019、2020年と増加傾向にあり、2020年の増加率は2019年よりも更に高まっています。



*平均寿命を迎える2005年～2007年に生まれた犬は80～100万頭前後いるため、新規飼育者の飼育頭数増にもかかわらず、犬の総飼育頭数は減少となっています。

2. 2020年 犬猫の年代別現在飼育状況 (P. 20)

年代別での飼育状況をみると、5年前と比べ犬の飼育率はどの年代でも減少しており、最も飼育率の低下が顕著なのは60代でした。また、猫の飼育率は、5年前と比べてほぼ横ばいとなっています。

()は2016年比

	犬	猫
全体	11.9% (▲1.7%)	9.6% (○0.0%)
20代	13.2% (▲0.2%)	9.1% (○0.3%)
30代	11.3% (▲0.7%)	9.5% (○0.4%)
40代	11.7% (▲2.2%)	10.3% (○0.5%)
50代	13.3% (▲3.4%)	10.8% (▲0.5%)
60代	12.2% (▲2.5%)	10.2% (▲0.2%)
70代	9.6% (▲0.6%)	7.6% (○0.2%)

3. 2020年 犬猫の年代別今後の飼育意向 (P. 21、90)

年代別での今後の犬の飼育意向は、5年前と比べ低下傾向となっていますが、2019年と比べ飼育意向低下が顕著なのは、60代・70代でした。飼育阻害要因として、「別れが辛い」、「最後まで世話をする自信がない」といった項目が他の年代と比べ、特に高くなっています。犬との生活で得られる喜びへの期待感に反して最後まで世話をする自信や責任感への葛藤が垣間見れます。

なお、猫の飼育意向は、20代を除き、5年前と比べてほぼ横ばいとなっています。

()は2016年比

	犬	猫
全体	19.4% (▲2.4%)	15.5% (▲0.3%)
20代	23.1% (▲3.3%)	18.3% (▲1.4%)
30代	20.4% (▲2.2%)	16.9% (▲0.4%)
40代	19.6% (▲2.8%)	17.1% (▲0.2%)
50代	20.8% (▲3.9%)	17.0% (▲0.5%)
60代	18.3% (▲2.4%)	13.9% (0.4%)
70代	14.8% (0.4%)	10.4% (0.7%)

4. 2020年 今後ペットの飼育促進に向けて

今後ペットの飼育促進に向けて、現在、非飼育者で飼育意向のある方々の「阻害要因」、「飼育のきっかけ」への回答として挙げられた上位項目は以下の通りとなりました。(複数回答)

阻害要因 非飼育者&飼育意向あり__犬 (P. 88)

- | | |
|----------------------|-------|
| 1. 集合住宅に住んでいて禁止されている | 26.8% |
| 2. 旅行など長期の外出がしづらくなる | 26.7% |
| 3. 別れが辛い | 24.2% |
| 4. 十分に世話ができない | 23.0% |
| 5. お金がかかる | 21.9% |

阻害要因 非飼育者&飼育意向あり__猫 (P. 89)

- | | |
|----------------------|-------|
| 1. 集合住宅に住んでいて禁止されている | 30.0% |
| 2. 旅行など長期の外出がしづらくなる | 24.2% |
| 3. 十分に世話ができない | 19.7% |
| 4. 別れが辛い | 19.6% |
| 5. 死ぬとかわいそう | 19.0% |

飼育理由__犬 (P. 94)

- | | |
|-----------------------------|-------|
| 1. 生活に癒し・安らぎが欲しかったから | 39.9% |
| 2. 過去に飼育経験があり、また飼いたくなかったから | 31.7% |
| 3. 周りの人が飼っているのを見て羨ましいと思ったから | 15.8% |

飼育理由__猫 (P. 95)

- | | |
|-----------------------------|-------|
| 1. 生活に癒し・安らぎが欲しかったから | 45.2% |
| 2. 過去に飼育経験があり、また飼いたくなかったから | 27.7% |
| 3. 周りの人が飼っているのを見て羨ましいと思ったから | 15.4% |

5. 2020年 犬・猫平均寿命 (P. 25)

犬全体の平均寿命は14.48歳、猫全体の平均寿命は15.45歳でした。犬は、超小型犬の寿命が長く、また、猫の場合、「家の外に出ない」猫の平均寿命は16.13歳、「家の外に出る」猫の平均寿命は13.57歳と寿命に大きな差がありました。

6. 2020年 ペットフードのタイプ別利用率 (複数回答) (P. 76)

犬猫共に市販のドライタイプのペットフードの利用が約9割あり、ほとんどの飼育者が何らかの市販のペットフードを利用しています。

また、コロナ禍で在宅時間が増えた中、コミュニケーションを目的としたおやつやウェットフードの給餌頻度が高まり、犬猫の食事の多様化がうかがえます。(P.124)

() は去年の数字

ペットフードのタイプ	犬	猫 (外猫を除く)
市販のドライタイプ	84.0% (85.1%)	91.5% (91.8%)
市販のウェットタイプ	28.6% (26.9%)	49.7% (49.0%)
市販の半生タイプ	20.1% (18.5%)	17.2% (16.2%)
市販のおやつ	40.9% (39.2%)	43.7% (40.2%)
ペット用療法食	9.2% (8.4%)	11.2% (11.7%)
手作りのペット用食事	13.8% (13.2%)	3.7% (3.8%)
人間の食事の残り	6.3% (6.7%)	3.5% (3.1%)
その他	3.1% (2.8%)	2.1% (2.5%)

7. コロナによる影響/変化 (P. 110~136)

ペットおよび飼育者にとって、コロナ禍での共同生活はおおむねポジティブにとらえられており、ペットから癒しを感じたり、気持ちの面で良い影響を受けている様子。一方、生活環境の変化が大きい若年層での飼育者および犬猫の中にはストレスを感じているケースも存在します。(P.127~128)

ペットへの感染についてだけでなく、普段の暮らしや予防、感染後の対応などペットとどう暮らしていくかに関心が高いことから、今後、これらについて情報発信をおこなっていききたいと考えます。(P.129~130)

8. 2020年 1ヶ月当たり支出総額 (犬:P. 39 猫:P. 59)

犬猫それぞれの支出総額は以下の通りです。()は去年の数字

犬に関する支出総額 (医療費等含む)	¥12,020	(¥11,562)
猫に関する支出総額 (医療費等含む)	¥7,252	(¥7,485)

以上